

■経済学研究科 修士課程

【教育課程・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

一橋大学大学院経済学研究科修士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の「1. 教育課程編成の考え方」に基づき、「2. 学修内容及び学修方法」、「3. 学修成果の到達目標」、「4. 学修成果の評価方法」により教育課程を実施します。

1. 教育課程編成の考え方

- (1) 1年次配当科目として「上級マイクロ経済学」、「中級マイクロ経済学」、「上級マクロ経済学」、「中級マクロ経済学」、「上級計量経済学」、「中級計量経済学」、「比較経済史」を選択必修の「コア科目」として設定する。
- (2) 講義科目の英語開講を推進するとともに学術英語スキルを身に付けるための講義科目を提供する（以下、「英語開講科目」）。
- (3) 「ワークショップ」を開講し、専門分野に関連する最先端の研究発表に触れる機会を提供する。
- (4) 2年次配当科目として「演習」を履修し、担当教員と共に作成した研究指導計画に基づき修士論文等を執筆する。

なお、学生が各自の目標に向かって適切な履修計画を立てることができるように、履修モデル及び全ての授業科目の概要、到達目標、内容及び評価方法を明記したシラバスを示します。また、授業の事前及び事後の学修指示や参考文献を示すなど、学生の主体的な学修を支援します。修士論文等の執筆にあたっては指導教員による「研究指導計画書」を作成して明確な指導方針を提示します。各学生は計画書に従って修士論文等を執筆することになります。さらに、研究活動上の不正行為を防止するため、全学生を対象として研究倫理教育を実施します。

2. 学修内容及び学修方法

第一に、「コア科目」を修得することで経済学の高度な専門的知識と分析技術を修得します。

第二に、「英語開講科目」や「ワークショップ」を履修することで最先端の学術論文や研究発表を理解する能力を身に付けます。

第三に、「演習」において担当教員の研究指導を受けることで修士論文等を執筆することで、経済・社会の課題を発見し、経済学に基づいた的確な分析を行う能力を養成します。

3. 学修成果の到達目標

本研究科修士課程での学修を通じ、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質等を修得し、経済学分野での研究者になるための基礎を身に付けること、もしくは公共政策の現場やシンクタンク、あるいはビジネスなどの現場で活躍できることを到達目標とします。

4. 学修成果の評価方法

各科目の学修成果は、科目の特性に応じて定期試験、レポート、小テストや発表を含む平常点などの方法で評価することとし、具体的な評価の方法はシラバスにおいて科目ごとに明示します。

修士論文等は、経済学に基づき的確に分析できているかを複数の審査委員が審査します。最終試験では、修士論文等と関連する内容についての口述試験を実施し、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質等を修得しているか評価します。